

“多摩川の奇跡”が示唆すること

<http://www.shinkojigawa.com/>

真光寺川を清流にする会 山口拓郎

今年は例年より春の訪れが遅いようようです。2月には40数年ぶりの豪雪に見舞われました。当日朝、下堰を訪れるとあたり一帯は深い雪に閉ざされていました。権現橋の上から親水を見透かすと数羽のカモが泳いでいるのが見えました。白壇々の雪景色でしたが川はいつもと変わらず悠々と流れていました。カモの群れが折から昇る太陽の光を全身に浴び嬉々として戯れていました。しばし時がたつのを忘れ見とれてしまいました。

○ラジオで「多摩川の奇跡」を聞きました。多摩川は山梨の笠取山に源を発し羽田で東京湾に注ぐ全長130kmの大河です。下流域は首都圏の人口密集地帯を流れています。1970年代高度成長期には水質汚染が進み5年で死の川になってしまったそうです。一面洗剤の泡におおわれ悪臭がただよってしまいました。生き物は死に絶え、勿論アユも姿を消してしまいました。その多摩川が地域住民と行政の15年にわたる努力により見事よみがえりました。今では四万十川をしのぐ清流を維持し、数十万匹のアユが遡上してくるそうです。将に奇跡に思えます。

○2月のウォーキングで図師小路歴史環境保全地域に伺い、田極さんのお話を聞きました。「荒れた谷戸の田んぼを元の環境に戻してやると、ホトケドジョウやオタマジャクシが湧くようによみがってきました」と。何と素晴らしい自然の復元力と生物の生命力ではないでしょうか。

○堂前先生の教室に伺いました。先生はおっしゃいました。「私たちは川を生き物が住んでいる場所として、その生態系を考えていくことが必要ではないでしょうか。CODやBODは川のある瞬間の化学的反応を示すもので刻々変化します。それよりそこに棲息している生物を観測することによって川が保持している環境を知ることができます。川の環境を維持するためには、行政や専門家の役割だけでなく、それを維持する市民団体や地域住民との協働が大切になってきます。」

○ひるがえって清流の会の活動をふりかると「子供たちが遊べる清流」を目指ひたすら清掃作業に取り組み夏には「川まつり」を開催してきました。しかし水は黒ずみ汚い藻が大量に発生するようになり「川まつり」も開催もままならなくなってきました。最近、川の生態系に着目する必要を話し合うようになってきました。汚い藻の発生はその種の藻の発生を促す環境に問題があり藻自体には罪はないのです。この改善のためにはより幅広い行政・地域住民との協力なくしては到底達成できないでしょう。

○最近、毎月の清掃作業の際ミニ水族館を展示するようになってきました。道行く人々がのぞきこみ子供たちも興味を示します。地域との幅広い交流の手がかりになりそうです。

○「多摩川の奇跡」は川の強靱な復元力を示唆しています。鶴見川でもアユが金井のあたりまで遡上しているそうです。いずれ真光寺川にアユの群れが遡上してくる可能性も否定できません。最近、そういう楽しい夢を語りあう機会が多くなってきました。

{12月}

12月 4日(水)里親通信発行・一木会
14時から支所で里親通信を印刷、ついで関係先に配布する。18時から魚民において一木会を開催する。川についてより幅広い取組も検討することになり、和光大学の堂前先生を訪問することになった。終わって魚民を出たところで声をかけられた。鶴三小の校長、副校長先生だった。忘年会のシーズンである。

12月 8日(日)清掃作業
曇。今年最後の作業日。13名参加。ゴミ20袋。志田さんが下堰親水にミニ水族館を展示する。道行く人々が覗きみ中にはカメラに収めていく方もいる。子どもたちは目を輝かせている。

12月10日(火)和光鶴小児童来訪
武田先生からメダカとメダカ・ポストのことが聞

きたいと連絡がある。真光寺川研究をしている4年生6名がくる。次々質問があり学習の成果を感じる。後日、感想文が送られてきた。

{1月}

1月 1日(水)元旦、下堰のただずまい
例年通り能ヶ谷神社の御札所で破魔矢を頒布しながら夜明けを迎える。見事な初日の出だった。帰路の途中、下堰に立ち寄る。新年の光を浴びてコイが悠々と遊泳していた。

1月 9日(木)一木会
隔月刊となり里親通信の発行作業はない。18時から魚民で一木会。出席6名。和光大学の学生がやっている「かわ道楽」との交流も話題になる。川の「生態系」を重視することはこれまで我々が目標として取り組んできた「子供たちが遊べる清流」と矛盾しないように思えてきた。

1月12日(日)三輪・岡上・寺家散策
新春恒例の散策会。参加11名。9:30鶴川駅集合。快晴微風、岡上東光院→三輪熊野神社→高蔵寺→妙福寺→寺家ふるさと村と予定のコースを辿る。妙福寺の境内で仰ぎ見たケヤキの巨木に宿るヤドリギは見事だった。昼食は寺家の蕎麦屋でささやかに新春を寿ぐ。天候にも恵まれ、すがすがしい一日だった。



田極さんから崖に埋もれた縄文土器の説明を受ける

{2月}

2月 4日(火)堂前研究室訪問
山本さんの車で5名同行する。研究室には水槽が積まれ鶴見川の魚が飼われている。先生が講義で遅れている間、「かわ道楽」の斉藤さん等と雑談する。魚や昆虫に詳しい。アユが金井の辺りまで遡上してきていることを聞く。先生は川につきあうには水質の化学的な検査より生態系の観察が重要なこと、また環境を維持するためには行政、地域住民、市民団体の連携の大切さを強調されていた。示唆に富み得ることが多かった。帰路、雪がますます激しくなる。45年ぶりの記録的豪雪となる。

2月 6日(木)里親通信発行・一木会
14時から里親通信の印刷し関係先に配布。18時から魚民で一木会開催。堂前先生の生態系のお話や「川道楽」との交流を話し合う。

2月24日(月)歴史環境保全地域訪問
9:30下堰親水集合、12名参加。4台の車に分乗し、図師・小野路歴史環境保全地域の田極理事長宅を目指す。田極さん宅は旧家では樹齢300年の椎の大木がありムササビが住み着いている。東日本震災で枝の一部が折れてしまい補強工事が施されていた。近辺には縄文土器の破片が多くみられる。事務所で「谷戸管理手法による環境保全」のお話を聴く。原野に還ってしまった谷戸を、組合を結成し旧来の手法を使って再生させる過程をパワーポイントを使い判りやすく説明して頂いた。その構想と行政、地域を連携して実現してゆく実行力には感銘をうけた。淡々と語られたが大変なご苦労があったことだろう。「谷戸をもとの環境に還してやるとホトケドジョウやオタマジャクシが湧くようによみがえってきた」というお話は特に印象的だった。終了後、雪の残る谷戸を歩いて小野路に新設された交流会館へ行き、昼食をとった。大変有意義な一日で満ち足りた気分だった。

2月28日(金)権現橋～矢崎橋の冬景色
毎月3回、矢崎橋の側にある悠々園にボランティアで郷土史の出前講座に通っている。昼過ぎ権現橋から川沿いに歩く。残雪もようやく消え川岸でカモ達が昼寝を楽しんでいた。朝とは全く違うのどかな情景である。(この項おわり)